

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 松久 貴晴

論 文 題 目

How many patients are required to provide a high level of reliability
in the Japanese version of the CARE Measure? A secondary analysis

(日本語版 CARE Measure において高い信頼性を得るために何人の
患者からの評価が必要か？ 二次分析の結果)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 審 委員 若 井 建 志

名古屋大学教授

委員 濱嶋 信之

名古屋大学教授

委員 松井 知之

名古屋大学教授

指導教授 萩谷 雅文

別紙 1 - 2

論文審査の結果の要旨

今回、医師の共感のレベルを患者の視点より評価するために、英国で開発された質問紙である The Consultation and Relational Empathy (CARE) Measure から翻訳された日本語版 CARE Measure における級内相関係数を算出し、何人の患者から評価を得られれば高い信頼性を得られるかについて確かめた。一般化可能性理論における G 研究、D 研究の結果、一人の総合診療医に対して、38 人以上の患者の評価で高い信頼性を持ってその共感のレベルを評価できたと言えると算出された。この結果は英語版、中国語版 CARE Measure で示された結果と比較しても妥当であった。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 本研究のデザインは、各対象者は複数の評価者からの評価を受けることになるが、評価者は対象者ごとに異なる不均衡包含デザインである。この場合、測定結果間の比較も信頼性もできないように見えるが、部分的な分散の計算は可能であり、対象者を群間要因とし、複数の評価者を群内要因とした。一元配置分散分析から、群間平均平方和を算出し対象者間の分散を推定し、群内平均平方和から偶然誤差分散を推定した。
2. CARE Measure の 1 点がどの程度共感のレベルの違いを反映しているかについての先行研究は少ない。先行研究では同一人物がマスクを着用した際と不着用の際に CARE Measure の得点が不着用の方が 1 点高いことが明らかにされている。
3. 本研究では先行研究に準じ、級内相関係数の定義は、分母は対象者間の平均点の分散と偶然誤差分散（評価者間の得点の分散）との和とし、分子は対象者間の平均点の分散と定義した。偶然誤差分散は参加したすべての評価者の総得点の分散を評価者的人数で割った平均的な偶然誤差分散と定義した。級内相関係数の評価の際に、対象者が複数の評価者によって評価される場合は、これらの平均値をとれば、一度きりの測定よりも、測定誤差（偶然誤差とバイアス）が減少するため、測定の信頼性が高まる。それゆえ、測定誤差による分散を人数（測定回数）で割り、平均的な誤差分散を使用した。
4. 本研究は単一の大学病院で実施されており、地方の病院や開業医などの評価は行っていない。大学病院での診療はその診療時間やケアの継続性から、日本のプライマリ・ケアの代表と言えない可能性があり、今後より、大規模な包括的な研究の実施が期待される。

本研究は、日常臨床で医師の共感を評価する上で、有力な方法を示した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号	氏名	松久貴晴
試験担当者	主査 石井達 副査1 松井信之 副査2 松井信之	審査 松井信之 松井信之	副査1 濱島信之 指導教授 萩谷雅文
(試験の結果の要旨)			
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 不均衡包含デザインについて2. CARE Measureの点数がどの程度共感の指標となるかについて3. 複数の評価者から評価を受ける場合の級内相関係数について4. 本研究結果の他施設での適応可能性について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、総合診療医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。</p>			